巻頭言

重厚長大産業の復権が日本経済の再生の鍵のような感じがしてきています。資源を持たざる国はやはり技術開発特化型の加工貿易型の経済が基本になるのかなと思い始めました。日本は“ものづくり”の原点に返ることが求められているように思います。日本人は元来、農耕民族であり狩猟民族的な発想にはなかなかなれないのではないでしょうか。農耕民族は無から有は考えられません。所詮、IT技術や金融技術では狩猟民族には勝てません。また知恵を絞って奪い取る術を考える能力は、残念ながら日本人は持ち合わせていません。

融資残高が2兆ドル（200兆円）といわれるサブプライムローン問題は、欧米大手金融機関の形状した損失 1,200 億ドルは融資残高の 6%の金額に過ぎませんので、まだ終焉を迎えているとは思えません。日米の住宅の建て方の違いをみてみますと、米国では8割の新築住宅が住宅販売業者またはデベロッパーにより建てられていますが日本では5割弱です。米国においては住宅建設が投資対象として、市場流動性の高い商品として位置付けられていますが、日本では個人の長期保有資産とみなされています。サブプライムは投資リスクを伴う住宅商品へのローンであり、投資リスクを回避するために証券化手法が用いられた金融商品です。高度な金融技術を駆使したもので、ミイラ取りがミイラになった感があります。

さて、わが国の重厚長大産業の代表格であります鉄の復権は高品質製造技術と省エネ技術によるものです。その背景には企業集約による国際競争力強化、選択と集中による高級製品への徹底したシフトがあります。自動車はトヨタが商品力と技術力で世界市場を魅了しGMを抜く時がきています。重機械と造船も元気が出てきています。技術力に裏づけされた復活が期待できます。

残念ながら電力・石油などのエネルギー産業は力不足の感がぬぐいきれません。なぜか。その理由は、エネルギーセキュリティーの名の下に、内向きで真に国際競争に晒されてこなかったことや長らく規制産業で経営自由度が小さかったことなどが大きな原因ではないかと考えます。そのために、研究開発投資と設備更新投資（スクラップアンドビルド）へのインセンティーブが働かずなかなか経営革新が進まなかったのではと思います。地球環境に優しい最新鋭の技術を駆使した設備への更新投資ができる政策的な投資環境整備をすることにより、思い切ったスクラップアンドビルドに踏み切る勇気を民間に喚起することが必要です。

沈滞した日本経済を活性化する手段として、また地球環境保全型の省エネ技術に特化した最新鋭設備の導入のために、産業界が思い切ったスクラップアンドビルドを推進できるような仕掛けを政策として用意することが求められていると思います。恒常的に、計画的に時代を先取りしたスクラップアンドビルドが産業界で進められるようになれば、効率化投資の拡大につながり、雇用機会も増大し、研究開発投資が促進され、技術革新も更に進み、経済波及効果の大きな好循環の経済社会が生まれるのではなかろうかと思っています。

代表取締役社長　黒川俊夫